

田人地区 地域おこし協力隊

ちーの山暮らし物語

6月号



こんにゃく芋の植え付け

五月一日はハ十八夜でした。田植えの準備の為、

田に湛水が始まり、風が吹くと、土と水が混ざった匂いで一帯が満たされています。夏も遠くないです！こんにゃく芋は田植えの頃に植え付けします。

今回はMさんの心の込もった種芋をいただきました。田人のこんにゃく文化を絶やさない為に、Mさんは四月から芋を選別、植え付け、土寄せを行い、冬になつたら、芋を温かいハウスに入れて粉殻の中に保存します。毎年、同じ作業を繰り返します。

私もそのこんにゃく文化を引継ぐ為に、Mさんと近所のYさんの指導を受けながら栽培を始めました。

ジャガイモの植え付けと同じように溝を掘り、生子、一年、二年、三年芋を順番に植えました。光合成の為、葉が伸びたら重ならないよう、葉の日陰で土が乾燥しないよう、芋の大きさにより、大体五十から七十センチまでの株間で植えました。どんなこんにゃくができるのだろうかとドキドキしながら、楽しみにしています。

福島県は、粘土質の地域が多く、ミネラル豊富な水が流れ込み、美味しいお米の栽培環境が整っています。

Hさんが事前に浸種作業を行い、その発芽した種糲を機械でまきました。この機械は育苗箱に土と種と水を同時にまくタイプです。育苗箱を一つ一つコンベヤーベルトに入れて、できた箱をハウスに運んで育苗シートをかけました。約二、三週間経つたら、田植えができるようになります。

Hさんご家族は育苗期間の温度や水分管理も大事にしています。その心の込もつたお米はとても美味しかったです。

将来はお米も作れるようになりたいです。貴重な機会でした。Hさんに感謝します。

三月に味噌作りを行った可愛く優しいYさんのお家では、様々な野菜と伝統料理を作っています。Yさんの家に行くと、畑の景色や温かさのいっぱいある料理で幸せが溢れます。いつもYさんのお陰で色々なことができます。

四月中旬にYさんからキャベツの苗をいただきました。Yさんのハウスの中で種から育ててきた苗です。私の住んでいるところの気温はYさんのところより温かい為、苗を貰ってから三日間で環境に馴染み、早速、マルチを張つてキャベツを植え付けました。アブラナ科の植物は虫に食べられてしまうことが多い為、防虫ネットもしっかりと張りました。

ひと月過ぎ、キャベツちゃんの根っこが土にしつかり張り、葉っぱも大きくなっています。どんな味がするキャベツができるか楽しみにしています！

お米の種まき



キャベツの定植

